

支店長の わがまち紹介 第81回



銚田市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとの密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は茨城県銚田市です。銚田支店長が銚田市長 岸田 一夫氏にお話を伺いました。

■ 日本の食生活を支える農業のまち

銚田市は東が太平洋、北が関東唯一の汽水湖・涸沼、南が北浦と、豊かな自然に囲まれています。海沿いに位置していることから、昼夜の寒暖差が大きく、果実や野菜の栽培に適しています。

このように恵まれた環境で営まれる本市の農業は全国第3位の産出額を誇り、日本の食生活を支えていると自負しています。特に、野菜部門は全国1位に輝いています(平成29年)。品目別では、メロンと甘藷が全国1位、イチゴとほうれん草が2位、トマトが4位、豚肉が5位となっています。その他ごぼう、じゃがいも、にんじん、葉物野菜など、多くの農産物が栽培されています。

近年、全国でJAの合併が進んでいますが、本市



日本の食生活を支える農産物

内には「JAほこた」と「JA茨城旭村」という売上高が100億円を超える2つのJAが所在しています。日々、切磋琢磨し、売り上げの向上に努めています。



銚田市長 岸田 一夫氏



銚田支店長 佐藤 憲一

先日、JA茨城旭村の野菜部会の大会に参加してきましたが、葉物関係の年間の売上額が40億円を超えたとのことです。決起集会では「来年度は45億円を目指す」と力強く誓い合う姿が見られました。非常に頼もしいと感じています。

また、本市の生産者の多くは、創意工夫を凝らすことで、自らの販路を見出しています。都内の有名店と契約している農家もあります。私は市長としてできる限り応援したいと考え、これまでとは違ったインパクトのある市勢要覧を作りました。これを見ていただければ、本市の素晴らしさがよくわかると思います。

さらに、市役所若手女性職員のアイデアを活かし、本市の農産物をちりばめた可愛いハッピーを制作しました。これを着て、都内など様々な場所で、甘くとろけるような食感が味わえる本市のメロンをはじめとする多くの特産品を更にPRしてまいりたいと思います。



ハッピーと市勢要覧

■ 日本有数のサーフポイント「とっぶ・さんて大洋下」

太平洋に面する旭・銚田・大洋地区は、サーフィンに適した場所として、多くのサーファーに親しまれています。特に、近年、大洋地区の「とっぶ・さんて大洋下」の海が日本有数のサーフポイントとして、熱い注目を浴びています。平日は20~30人、夏の暑い時期には100人を超えるサーファーが連日訪れ、良質な波を楽しんでいます。

私が市長就任後から始めた「波のり銚田メロンカップ」は、今年で3回目を迎えます。フラのショーやケータリングサービスなどを行うことにより、サーファー以外の方も楽しめるイベントになっています。ぜひ、多くの方に訪れていただきたいと思います。

2020年東京オリンピック・パラリンピックではサーフィンが正式種目となりました。残念ながら競

日本有数のサーフポイント
とっぶ・さんて大洋下

技会場は本市ではなく、千葉県長生郡一宮町が選ばれましたが、今後、本市でも整備を進め、施設も知名度も含めて、「全国トップのサーフィンのまち」を目指したいと考えています。

■ 本市の宝「子どもたち」の健やかな成長のために

地球温暖化によって、年々、夏の暑さが厳しいものとなっています。しかし、市内のほとんどの小中学校にエアコン設備がありませんでした。子どもたちは未来を担う本市の「宝」です。より良い教育環境を整えるため、公立幼稚園、小・中学校へのエアコン設置が今年度で完了いたしました。

すると、中学校の校長先生から、「子どもたちが落ち着き、授業に集中できるようになりました」と

伝えられました。さらに、夏休みの期間、これまでは部活後すぐに帰宅していた子どもたちが、学校で勉強をしているようです。涼しい学校での勉強ははかどるのでしょうか。きっと保護者の皆さまにも喜んでいただけたのではないかと思います。

また、私は市議会議員時代から「教師」という職業がいかに大変であるかを伺っていたため、負担軽減を目的に、特別支援教育支援員を増員しました。さらに、お盆の期間は、3日間の休暇を取得し、心と体のリフレッシュに努めていただきました。子どもたちの健やかな成長のためには、教師が心身ともに健全であることが必要だと考えています。

加えて、一昨年から、市内の中学生をオーストラリアに派遣する「中学生海外派遣事業」を始めました。保護者が大きな負担を感じることはない金額(50,000円)を個人負担額に設定し、市内の中学生を16名募りました。

多数の応募の中、選ばれた子どもたちは、事前研修を受けて渡豪し、現地での学校訪問やホームステイなどを通じて様々な体験をします。その後、本市に戻り、報告会で発表してもらうのですが、昨年の報告会では、子どもたちの大きな成長を感じました。今後も国際感覚を養い、グローバルに対応できる人材を育成するため、同事業を続けていきたいと思っています。



オーストラリアでの様子

■ 積極的な道路の整備により交通利便性向上を図る

市内における交通量の多い幹線道路341kmを調査し、傷みの激しい約70kmについて、近く道路改修工事を行う予定です。また、既存の道路についても危険な部分を維持補修します。

道路の整備については昨年の夏頃から検討していたため、次年度は道路の新設や改良、冠水対応工事に約6億円の財源を確保しました。また、涸沼の箕輪地区からカシマサッカースタジアムまでを一直線に結ぶことができる道路を整備したいと考えています。現在、鹿嶋市側から途中まで来ており、残りの2kmを整備することで開通します。そして、数年の後には、国道51号、主要地方道

18号茨城鹿島線、県道242号鉾田鹿嶋線の3本の道路が貫き、移動が格段に便利になります。そのため、本市内の国道51号の狭い部分も拡幅する予定です。道路状況が悪ければ人口増加を望むことは難しいですが、積極的な道路整備によって、拡幅された道路沿いに住宅が増加するのではないかと考えています。まさに筋道をつけるということです。

また、道路の修繕に関しては、基本的に区長を通して要望を上げていただくようお願いしています。市民の安全のため、必要な部分は全て修繕していく予定です。そして、修繕後の状況については休日のドライブなどを兼ねて、自分の目で必ず確かめるようにしています。

■「安全・安心」で住みよいまちへ

私は消防署長を務めた経験から、市民の「安全・安心」に対しては、並々ならぬ想いがあります。そのため、今年の台風19号では、いち早く避難勧告を出すなど、市民の安全確保に努めました。

例えば、夜遅くに避難勧告が出た場合、高齢者は避難するでしょうか。子ども、孫には避難を勧め、自分は残るといふ方もいます。しかし、これまで本市を支えてきた高齢者の方も等しく大切な命です。市役所では、災害対策本部を設置し、女性職員も含めて対応し、早め早めの避難勧告を発令しました。

その結果、幸いなことに、本市では1人の命も失われずにすみました。「何もなかったのに、なぜ避難させたのか」と考える方もいるかもしれませんが、しかし、何もなかったことは大変喜ばしいことだと考えています。

避難場所となった施設は、市で当初開設した施設だけではなく、被災した方の近くにある地域の集会所を管理者の協力を得て避難所として開設しました。避難自体が大変なことであるため、市民の負担を軽減できるよう最大限の対応をしました。さらに台風通過後、避難所を閉鎖するところではありますが、地域によっては停電が続いたため、避難所を自主避難所として開放しました。

本市は消防団の条例定数が茨城県で最も多いまちです。近年、就業形態が変化しサラリーマンが増え、平日昼間の地域における消防力低下が懸念されるなか、消防力を維持するために、市職員で構成する消防団を作りたいと考えています。全国どこでも団員数は減少しています。そのため、家の近くだけでなく、職場の近くで火災が発生した場合にも出動するなど、臨機応変に対応できる体制が必要だと考えています。

■ まちの活性化で、交流人口の増加へ

近年、サーフィンや海釣りを趣味とする方の移住が増えてきています。しかし、本市における一昨年の出生数は231名、昨年は210名と年々減少しています。そのため、本市が取り組むべき喫緊の課題は、人口減少対策だと考えており、現在、安心して子どもを産み、育て、暮らせるまちとなるよう、各種支援策の整備強化に取り組んでいます。

また、ビジネスや普段の生活において、誰もが活力を感じることができるまちづくりが必要だと考えています。

そこで、まちの活性化策の1つとして、一昨年10月、「鉾田うまかっぺフェスタ まちなかカーニバル」を開催しました。筑波銀行の駐車場をお借りしてステージを作り、芸能人のトークイベントのほか、バンド演奏など様々な催し物で子どもから大人まで楽しめるイベントとなりました。また、商工会にお願いし、本来は2年に1度、8月に開催する花火大会を同イベントのエンディングに合わせての開催としていただきました。初めての試みにも関わらず、「どこからこんなに人が集まってきたのか」と思うほどの方々が会場を訪れ、大盛況のうちに終了しました。私は本市の花火大会や他の花火大会を何十年も見てきましたが、あの時ほど澄みわたる空に美しく咲いた花火を他に見たことがありません。

昨年はイベントの名前を「うまかっぺハロウィン2019」に変えて開催しました。イベントは大盛況であり、今後も継続していきたいと考えています。

今年は花火大会がある年です。まだ、開催時期は決まっていますが、イベント、花火大会ともに多くの方にご来場いただき、まちの活性化を図りたいと考えています。



まちなかカーニバルのメインステージ

■ 筑波銀行に期待することをお聞かせください

まちなかでのイベントの際、駐車場をお貸しいただくなど、多方面から地域貢献をしていただいております。本当にありがたく感じています。

今後も本市の発展のために、さらに踏み込んだご支援を期待しています。

取材日：2020年2月25日
写真提供：鉾田市